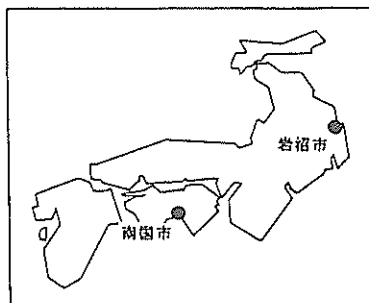


# あたたかな交流のはじまり

## 南国市青年市民会議・岩沼市訪問レポート その1



### 岩沼市

岩沼市は宮城県都の仙台市と隣接し、東北の空の玄関仙

### ふるさと見聞録

台空港を持つ交通の要衝地。ともに県都に隣接した空港・田園産業都市と市勢が似ていることから昭和48年7月23日に姉妹都市の縁を結びました。

南国市と宮城県岩沼市は昭和四十八年七月二十三日、ともに県都に隣接した空港都市であることから姉妹都市提携が行われました。その後、市議会相互の訪問やライオンズクラブの定着した交流などが行われてきましたが、市民が直接関心を持ち参加する機会があまりにも少なかったようです。また姉妹都市があることすら知らなかった人もいたのではないのでしょうか。



岩沼駅で再度の出会い

南国市制三十周年記念事業の一つとして平成元年五月に岩沼市青年市民会議と南国市青年市民会議との「まちづくり研究交流会」が開催され、さまざまな場で活躍している青年がまちづくりの夢を語り合い、お互いを知り、理解し合うという機会を持つことができました。そして岩沼市青年市民会議は、平成二年五月に最終提言書「二十一世紀の岩沼へ向かって」という内容で市長に提出をしています。私たちも南国市を「かがやくまちに」と自分たちの声で語り合い、研究し、そのまめとしての提言書作成も大詰めになっており、再び先輩格である岩沼の方々との交流することが意義深く、また、お互いの市のきずなを強めるものだと考えました。

平成三年二月二十二日から二十四日の日程で青年市民会議十一名と行政担当者三名とが姉妹都市岩沼へと高知空港を飛び立ちました。仙台に向かう車中、数日前は大雪だったということ、南国では見られない白い世界を期待しながら移り行く景色を眺め、また、岩沼のいろいろな顔を思い浮かべました。夢いっぱい星の話をしていた人。米の新種を見つけたと熱弁をきかせてくれた農業青年。結局最後は「人」づくりが一番大切とやさしく語った人。私たち十一名はそれぞれに期待を胸に、しかし、どのような交流が持てるのか少し不安もありました。今は解散してしまった青年市民会議の仲間が果たして快く集まってくれるだろうか、また、全く立場の違う者同士で有意義な交流ができるだろうか。こんな心配もJR岩沼駅に着くと同時に吹っ飛んでしまいました。駅の構内には一年半前のなつかしい顔。同窓会のようにでもありました。南国とは違っても寒さに震えあがりましたが、たくさんの方々から歓迎をしていただき、その後は誰からともなくごく自然な形で懇談が始まりました。なにかあたたかな交流の始まりを予感しました。

研修内容は市政担当者との意見交換、まちづくり研究会、市内及び県内の視察です。まず、宿泊所であるグリーンピア岩沼に向かい、荷物を置いて打ち合わせなどを行いました。一面、雪化粧の中、プール、テニス場、スポーツハウスやアスレチックコースなどができました。シーズンにはたいへんにぎわいそうです。その後、バスで市庁舎に案内され、保健センターで市政の現況説明を受けました。

(3回シリーズ)